

Nozomi Dream

No.0020

昔の彼女に逢いたい…

2017/6/4

38年ぶりの再会に涙が…

長田:「ごめんなー」

八田:「うーん」

これが38年ぶりの再会の最初のやり取りでした。今日は、長田さん81歳の誕生日、のぞみの家から約1時間半、車に乗ってやってきたのは、稲沢市にある「愛厚はなのきの里」。冒頭の会話は、長田さんとこちらに入所されている八田ともみさんの会話です。長田さんと八田さんは40年ほど前、豊川市にある希全寮（現：希全の里）で暮らしていました。そこで同じ時を過ごし、互いに惹かれあい、いつしか一緒になろうとまで考えていました。しかし、二人は転所という選択をせざるを得ない状況にありました。それならいっそ結婚して一緒に暮らそうとも考えたそうですが、当時の障害年金は少なく、現実的には厳しい状況で断念しました。そんな中、長田さんは「ひかりのさとのぞみの家」に行くことを決断し、八田さんは「はなのきの里」へ。二人は別々の人生を送ることになりました。



八田さんは、ピンク色の車いすの上で体が傾かないよう力を入れ、綺麗にお化粧されていました。表情がいきいきとされ美しく、再会を喜ばれていることがすぐに伝わってきました。普段は体力的にもあまり乗ることのない車椅子に座り、逢えるのを待ち焦がれていたそうです。

二人は昔の写真をみながら、思い出話に花を咲かせました。八田さんも言葉は出ないながらも、表情の変化からとても懐かしんでいる様子でした。そんな以心伝心の二人の姿に、はなのきの里の職員さんや私達も羨ましい限りでした。



近況をはなのきの里の職員さんを介して伝え合う頃、八田さんの目から細く涙が流れていました。長田さんはこっそりとプレゼントを準備していました。プレゼントに選んだのは、深いブルーの石のファイテン（磁気ネックレス）でした。ネックレスをつけるととてもお似合いです。思い出となる素敵な贈り物は、離れていても、いつも一緒というメッセージが込められているようでした。

「ともちゃん、コーヒー飲むかな」と長田さんから頼まれ、コーヒー5パックを持参しました。すると八田さんも同じことを考えられていて、コーヒーが人数分用意されていました。やはり、おふたりはどこかでつながっていたのでしょうか。甘い二人にミルクチョコレートのかけらを2つに割り、それぞれに召し上がったところ、八田さんがはっきりと「おいしい」と言われました。



楽しい時間はすぐに過ぎ、別れの時が迫ってきました。二人は、別れの握手をすると、八田さんの目から涙が…必ずまた会おうと約束し、のぞみの家へ帰りました。



帰り道、「うなぎ」を食べながら何度も何度も「ありがとなー」と。想いをとげられ、今までに見たこともないような笑顔の長田さん。体全体から喜びがあふれていた美しい八田さんとの再会に立ち会わせて頂き、ありがとうございました。感動をいただいた我々職員のほうが感謝でいっぱいでした。



My Dream

昔の彼女に逢いたい…

長田 廣美



良い誕生日になった。
ありがとなー。

山口晋史
玉村小百合、長田廣美